

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回武蔵野市都市計画マスタープラン改定委員会
開 催 日 時	令和元年8月5日(月) 開会時刻 午後7時00分 閉会時刻 午後9時00分
開 催 場 所	市役所本庁舎4階412会議室
出 席 者	柳沢 厚 C-まち計画室代表 保井 美樹 法政大学教授 大沢 昌玄 日本大学教授 墨 昭宏 公募市民 舟木 公一郎 公募市民 恩田 秀樹 武蔵野市
欠 席 者	阿部 伸太 東京農業大学准教授 長島 剛 多摩大学教授
会 議 の 議 題	1 武蔵野市都市計画マスタープラン改定委員会 委嘱式 (1)委嘱状交付 (2)都市整備部参事挨拶 (3)委員自己紹介 (4)事務局紹介  2 第1回武蔵野市都市計画マスタープラン改定委員会 (1)改定委員会の設置及び委員長・副委員長の選出 (2)改定委員会の運営について (3)都市計画マスタープラン改定に関する基本方針(案)について (4)その他

発言者	発言の要旨
	<p><b>1 武蔵野市都市計画マスタープラン改定委員会 委嘱式</b>  ～委嘱状交付、都市整備部参事挨拶、委員自己紹介、事務局紹介～</p> <p><b>2 第1回武蔵野市都市計画マスタープラン改定委員会</b>  <b>(1) 改定委員会の設置及び委員長・副委員長の選出</b>  ～柳沢委員を推薦、全委員了承～  ～柳沢委員長の指名により、保井委員を副委員長に選出～</p> <p><b>(2) 改定委員会の運営について</b>  ～事務局より、運営案を説明し、その後質疑応答、意見交換～</p> <p>A委員 資料は、本日配布された資料を含めて公表していくのか。</p> <p>事務局 運営案としては、出典元の了解のない資料などを除き、本日の資料を含めて原則公表としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回より傍聴可</li> <li>・議事録は、氏名非公表で議事要旨を作成</li> <li>・議事要旨、配布資料は、HP で公表</li> </ul> <p><b>(3) 都市計画マスタープラン改定に関する基本方針（案）について</b>  ～事務局より、資料3・4・5・6を説明。その後質疑応答、意見交換～</p> <p>B委員 武蔵野市では、都市基盤分野に関係する団体・組織が少ない。  まちづくりのプレーヤーとなる人たち等と議論する機会が大事だと考えるが、「事業者ヒアリング」はどのような主体を対象に行うのか。</p> <p>事務局 「事業者ヒアリング」の対象は、駅周辺や住宅地で優良な開発を行っている開発事業者としたいと考えている。「事業者ワークショップ」の対象は、開発事業者ではなく、エッジの効いた地域のまちづくり活動を行っている事業者等として、どうしたら地域のまちづくり活動の芽が広がるのか意見を聞きたい。また、圏域別意見交換会の対象は、広く市民等へ参加募集するほか、子育てしている世代へも声掛けしていくことを予定している。</p>

発言者	発言の要旨
C委員	都市マスタープラン策定から 20 年が経過した現時点での反省点や、10 年前を振り返ってこうしておけば防げたと思う課題などはあるのか？
事務局	前回の改定でも景観や高さなどその時点の課題に対応する施策を掲げ、実行してきた。次回から各論点に関する現状や課題、これまで取り組んできた施策などについて説明したい。
A委員	論点シートが整理されすぎていて、現況等から論点に至るまでの中間がない。議論する中で、中間にあたる課題を浮かび上がらせたい。
B委員	現行の都市マスを見ると、過去 20 年でまちづくり条例や景観ガイドラインなど、作られた仕組みは素晴らしいが、なかなか活用されていない点が課題だと思う。住まい手とともに、一緒にまちづくりを考えてくれる主体との意見交換が非常に重要だと考える。
委員長	まちづくりに対する市民参加の熱が冷めていて、その状況の中で、根拠づくりのために市民等の意見把握を行おうとしているような印象を受ける。パブコメのような顔の見えない形での意見反映も必要だが、意見交換をした人の顔が見え、繰り返し議論を行える場を多く持つよう努めてほしい。市民参加は計画を作る過程でも大事だが、抽象的なマスタープランが策定された後、具体化する過程で市民参加ができると、計画の価値を膨らませることができる。作った後の使われ方について見通しを持つことが重要である。
D委員	官と民の隔たりのない都市マスを目指す考えは良いと思う。しかし、「民」の中に様々な主体が入っておりわかりにくい。住まい手や事業者など質の違う民があると思うが、資料を見るとヒアリング対象が開発事業者に偏っている印象を受ける。ヒアリング対象が住まいを作る供給者だけで良いのか議論しても良いかもしれない。問題意識から対象を選ぶのではなく、将来をみて自動運転など未来の移動を語る方などを選んでほしい。
E委員	都市マスは内容が抽象的で難しい。この計画で何かを進めるものでもないため、どうしても他人事のようになりやすい。今後の社会の変化を具体的に突き詰めると課題が出てくる。20 年後を見据え、行政の財源が減少していく中で、行政サービスといわれるものも、民間事業者

発言者	発言の要旨
委員長	<p>がリスクを負って必要とされる役割を事業として担っていく必要がある。その上でどのようなルール、連携の方法が必要かを盛り込んだ方が良い。プロセスを住民・事業者と共有しながらビジョンを作ることが重要だと考えている。</p>
委員長	<p>最終的にどこまで記述できるかは別にして、策定後の展開を想定した記述にしてほしい。それによって、活用できる計画になる。</p>
B委員	<p>都市マスの構成は変えられるのか。東京都の都市づくりのグランドデザインもそうだが、住まい手の視点で、20年後の将来の生活像をはじめに描き、その実現に向けて不足することを記述する形にしてはどうか。例えば、将来こういう暮らしをしたいという事を、使い手を主語として動詞で列挙する。それに対し、足りていない事を民と官がシームレスでつながりながら対応する事が考えられる。</p>
委員長	<p>一度チャレンジする価値はある。20年後の生活像がどのようになりたいか、望ましい姿や大事なことについて書きならべて束ねる方法も考えられる。</p>
C委員	<p>現行の都市マスが素晴らしい内容だとすると、良いものがあるのに知られていない、使われていないことは問題だと思う。特に土地をたくさん所有している人は意識が変わると、地域のまちづくりへの効果も大きく、地域からも愛されることにもつながる。市民へ伝えるためにも、構成を変える必要があるのかもしれない。小手先の修正だと何も伝わらない都市マスになると思われる。発信するだけでなくしっかり伝えて、市民のよりどころになると良い。</p>
委員長	<p>現行の都市マスは、行政が取組む内容はわかりやすいが、一般の市民や事業者が取組む際はほとんど参考にならない。逆転して一般の市民や企業が動くときの指針として構成を大きく変えるチャレンジも必要だと思う。一般の市民や事業者がまちづくりに取組む上で参考となる都市マスづくりにチャレンジしてはどうか。</p>
E委員	<p>その視点は戦略的に重要。エリアの価値を高めるためにどのような取組みをするかの指針になると良い。地権者が資産活用の最終決定権を持っているので、地権者自身がまちづくりのビジョンを持っていないとまちは変わりにくい。ただ地域が良くなるということだけでは地権者は耳を貸しても行動しない。地権者の協力を得るためにも、地域の暮らしが魅力的になる空間活用を事業として</p>

発言者	発言の要旨
A委員	<p>展開する必要があると考える。</p> <p>これまで都市マスは行政計画の視点で作られており、役所側の土地利用の計画が強かった。長期計画は施策を網羅しており、様々な議論をしているが、都市マスは対象が明確でない。例えば緑の基本計画などは緑に特化した内容だが、都市マスは、市民生活を良くするためのにぎわい作りなど、商業や福祉なども関わる。そうすると長期計画との棲み分けがなくなるので、個人的にはもっと濃縮して10年間にやるべき取組みを計画として作成してはどうか。都市計画やまちづくりで何をすべきか、何が必要かまとめられたらいいと考える。</p>
委員長	<p>行政の指針となるものは必要だが今はそれに終始している。今回は、一般の市民や地主、企業などにしかるべきメッセージを出せるものを目指した場合、どのような作業が必要か事務局の方で検討し、次回報告してもらいたい。</p> <p><b>(4) その他</b> ～事務局より、基礎資料を説明し、その後質疑応答、意見交換～</p>
D委員	<p>基礎資料は、現況を把握するデータとしては良いが、20年後の将来を考える時のデータが足りていない。武蔵野市は先進的な都市であるため、現況としてライフスタイルを把握することも必要である。パーソントリップ調査データで変化を見てとれると考える。</p>
B委員	<p>他部署でコミセンや公会堂などハードに関わる部分は、都市マスの対象に含まれるのか？</p>
事務局	<p>他分野のハード整備についても、都市マスとして全く関わりがないわけではないが、その必要性は、都市基盤というより個別分野の需要等が大きく関わる。そのため、都市マスの中で、直接的な方向性を出すことは難しい。</p>
B委員	<p>他分野のハード整備の中でも、「居場所」など小さい部分については民間開発の公共貢献の中で実現可能性であったり、担い手との関わり方など知恵を絞るところだろう。それらについては、都市マスの対象に含めてほしい。</p>
事務局	<p>例えば、子どもの居場所でいうと、どういった子どもの居場所が必要なのか他部署から直接意見が出てこないことの弊害を感じている。都市マスなどを通じ</p>

発言者	発言の要旨
B委員	<p>て、使い手の声が都市基盤に来る流れを作りたい。</p> <p>現状やこれまで取り組んできた事、今後の施策を考えるプロセスだと主語が行政になる。すべて行政がやることとして記述する都市マスは避けたい。今のスケジュールだと、論点や素案ができた段階で地域の意見を聞くため、出される意見はもう少し記載を変えてほしいといった内容になる。もう少し早い段階で将来像をしっかりと市民と共有する進め方をしてほしい。共有した将来像を踏まえ戦術的に市がやる部分と、民間が取り組むときの指針として出せばよい。</p>
委員長	<p>人口推計で将来の人口が増加する要因は何か？</p>
A委員	<p>直近5年の傾向が伸びているため増加を想定している。低層住宅が中高層化しており、特に沿道のマンション化に伴い複数戸になることで人口が増加している。また、外国人の増加も大きい。傾向が変更すると推計値も変わってくるため、1%の差異が生じた時点で見なおすこととしている。</p>
委員長	<p>1-74の空き家がH20に急増した理由は何か。</p>
A委員	<p>住宅土地統計調査で標本調査による変化や、共同住宅の空き家が増えていると考える。老朽化したアパートは入居されない事が多いと考える。</p>
委員長	<p>事務局が予定しているスケジュールを変えることが提案されているので、見直すつもりで作業する事。基本方針にある改定のポイント1～6は、行政計画の改定ポイント。都市マスが対象とするハード環境を整える部分について、将来の生活像を見据え、行政内や市民と共有し書き込むと、シームレスにつながりながらまちづくりを進めていくための指針も出ると思う。大変だけど一度やってほしい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>